

## リンパ球の分化と成熟



リンパ球は白血球細胞として、病原細菌やウイルス感染から生体を防御する役割を持つ。骨髄中の造血幹細胞は赤血球や白血球のもととなる細胞である。この細胞は骨髄性白血球や赤血球、リンパ球、単球などに分化する。造血幹細胞のうちBリンパ球に分化するものは骨髄中でリンパ芽球となりさらに分化してリンパ球となって血中に放出される。身体のリンパ節や脾臓、虫垂などのリンパ性器官にたどりついて、そこでさらに分裂増殖を繰り返す。一方胎児の段階で造血幹細胞の一部は胸腺にたどりつき、分化成熟するのがTリンパ球である。胸腺中のTリンパ球は受容体を介して自分が接触する細胞が自己細胞あるいは自己成分であるのか、または非自己細胞あるいは自己以外の成分であるのかを認識できるTリンパ球に教育される。自己か非自己かを見極められるTリンパ球が免疫全体をコントロールするヘルパーT細胞となって血中を巡回する。しかし胸腺で成熟してTリンパ球になる細胞は一部であり多くは細胞死を迎える。

リンパ球は大きく分けて次の働きを担う。

Tリンパ球	細胞性免疫	Tリンパ球は免疫の状態をコントロール
Bリンパ球	体液性免疫	侵入した抗原情報に応じた免疫グロブリン(抗体)を産生